

② 既存資料のとりまとめ

認識された問題について、その問題が発生した原因（因果関係）を想定するために、既存資料のとりまとめを行います。

問題が認識されたら、その問題が発生した原因（因果関係）を想定するために、既存の資料を整理していくことが大切です。整理した資料は問題の発生要因の分析だけでなく、どのような河川環境を目標とするかを検討する際にも必要となります。例えば、歴史的変遷のなかから、かつて見られた河川環境を抽出し、それを目標像とすることも考えられます。

●流域・河川の現状及び歴史的変遷を把握し分析する

人口等の社会的指標の変化、災害の発生、治水・利水事業の実施記録などのほか、空中写真や地図、流量観測・測量・水質・生物・横断工作物の設置状況等のさまざまなデータを利用して、現在までの流域の土地利用や縦横断的な河道の変化などを時系列に整理することで、河川・流域の現状及び歴史的変遷の把握を行います。流域や河川全体だけでなく、河道特性（河床材料、勾配等）や生物の生息・生育環境などの点で特徴のある区間（セグメントや流域の状態などで区分する）ごとにも整理を行うと、区間ごとの変遷や問題の特徴が把握でき、河川全体や区間相互の関係もみえてきます。

これらの整理と相互の関連性についての分析を行うことで、例えばある魚類の減少と河道特性の変化などのようなことも、流域のような広い視点から関連付けて考えることができるようになります。

●写真収集や聞き取り調査を行う

資料やデータの整理だけでなく、地域住民が持っている昔の風景写真を収集すること、聞き取りやアンケート調査で昔の河川の状況や変化を把握することも重要です。特に資料やデータが不足していて、既存資料では傾向がわからない場合や判断が困難な場合に有効な情報源となります。

天竜川の写真集『天竜川のあの頃』の作成の例では、河川管理者の呼びかけに応じ地域住民から短期間に約2,000枚もの貴重な資料が寄せられました。これらを見ると、かつての流れの状況や河原の礫の状況などをある程度判読することができるのがわかります。



出典：『写真集天竜川のあの頃』

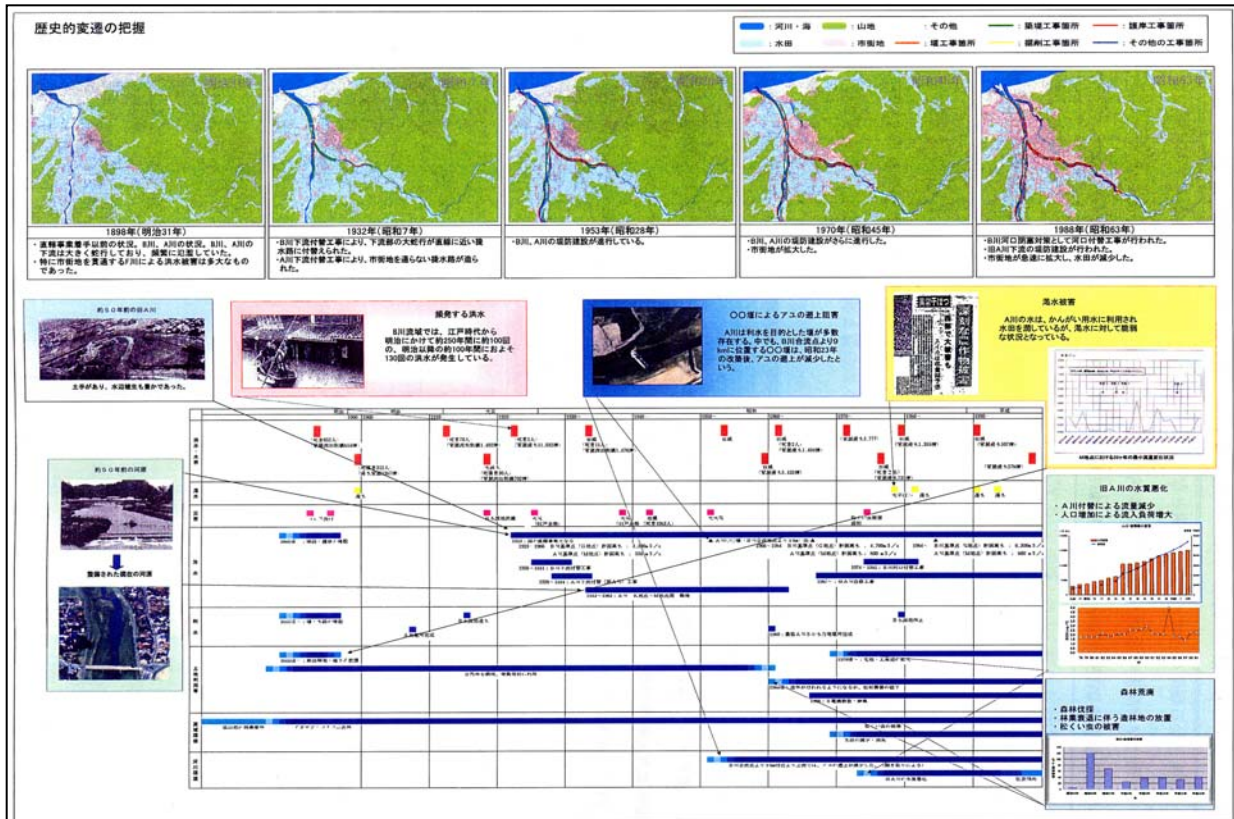


聞き取り調査に際しては、質問のポイントを絞って行うことが重要です。データからはわからなかったこと、例えば、川に入ったときの足の感触、淵の深さ、遊びの対象となった生き物などが考えられます。

生き物に関しては既往の資料などから過去の状況がわからないことが多く、写真や聞き取り調査によって得られた情報が重要となる場合があります。

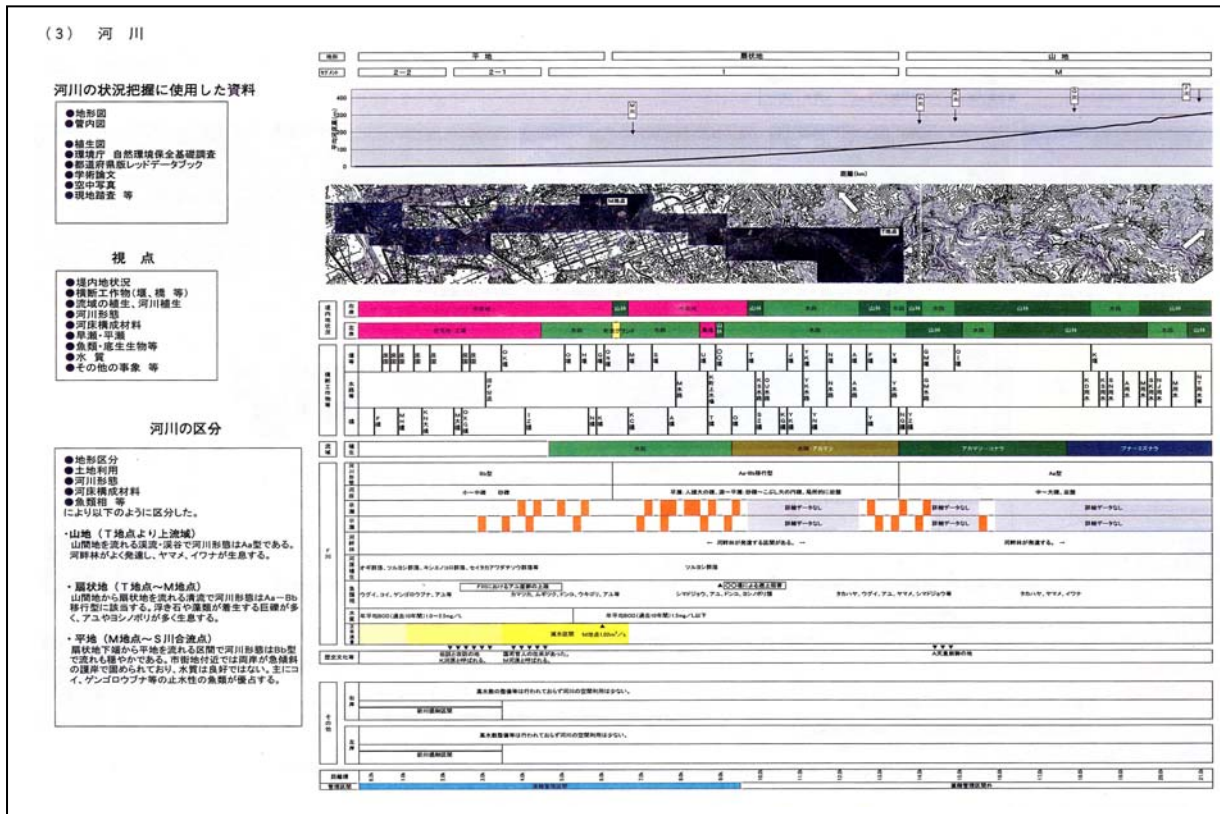
また、聞き取り、アンケート調査やその結果を通じて、地域住民との交流・理解が深まったという例（多摩川）もあることから、積極的な実施が望まれます。

歴史の変遷の整理例



出典：『河川事業の計画段階における環境影響の分析方法の考え方』

縦断的变化の整理例 (環境類型区分)



出典：『河川事業の計画段階における環境影響の分析方法の考え方』